

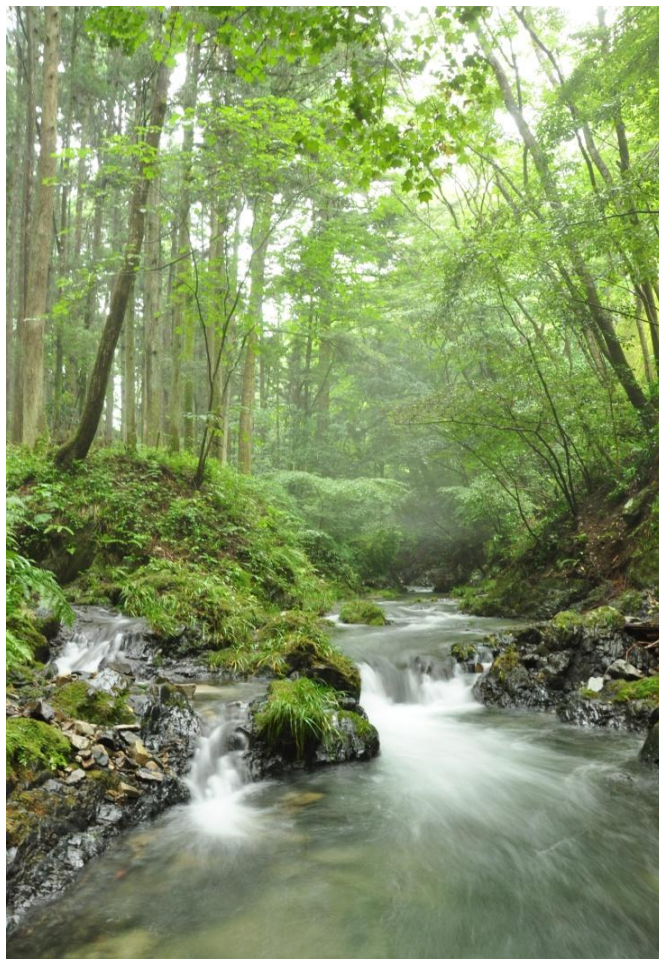
八王子 水のまちニュース

創刊号

平成24年11月

八王子市水循環部
水環境整備課
042-620-7291（直通）

第1回あさかわ写真コンクール 一般の部 最優秀賞 川村 登さんの作品



良好な水環境を
未来の子どもたちへ

市長あいさつ

八王子市は、緑豊かな高尾山や陣馬山、そしてその山並みから清らかな源流を集めて流れる浅川など、水と緑が形成する豊かな自然を持った魅力的なまちです。

市政世論調査でも「八王子に住み続けたい」という方が約9割。その理由として、回答者の約6割の方が「緑が多く自然に恵まれているから」と答えています。

下水道の整備により清流が復活した川に、かつては身近に見られた子どもたちでにぎわう水辺の風景を取り戻し、良好な水環境を未来の子どもたちにつなげていきます。

そして、市民の皆様と協働して多くの生きものが生息できる生態系豊かな水辺づくりを推進し、魅力あふれるまちづくりに努めてまいります。



八王子市長 石森 孝志

「水のまちニュース」発行にあたり

八王子市内には多くの川があり、現在、湧水や水辺を活かしたまちづくりに向けた事業を展開しています。河川をはじめ、湧水や水路などの景観保全や水質改善は、市民の皆さまの御理解、御協力が必要です。そこで、地域の皆さまと協働し、良好な水環境を未来の子どもたちにつなげていくために、水辺の情報誌として「水のまちニュース」を発行いたしました。今後、水辺の整備やイベントの報告、地域の皆さまの水辺の活動の様子、水辺の生きものなどを紹介していく予定です。

川口川上流域谷戸と水路の 生きものプロジェクト

地元町会（川口西部町会）と市で協議会をつくり、川口十二社弁天池を整備し、生きもの調査を行いながら谷戸の保全について話し合いをしています。

じゅうにそ 川口十二社弁天池の整備

生きもの調査に基づき、地域の特性を活かした多様な生物が、共生できる水辺づくりとして池の整備を行いました。



●計 6 回の生きもの調査



●多様な生物が共生できる空間づくり



水際は緩やかな傾斜と自然の流れを活かして水辺植生を保全しています



護岸は玉石を積み、この玉石の隙間は水生生物の育つ場所となります

整備前のようす

ネットフェンスにより水辺に近づくことが出来ない。
池の水面はコウホネで覆われている。
池には、外来種のアメリカザリガニなどが多く生息。



整備後のようす

自然環境に配慮し、地域在来の動植物を保全。
池の樹木やコウホネを整理することにより、明るく親水性のある空間。



今後の展開としては、・保全を継続的に行っていくための仕組みづくり

- ・水田の再生への取り組み
 - ・教育や学習の場としての活用
- をすすめていきます。

浅川流域連携事業

8月22日（水）に「浅川であそぼう！」を実施しました。

多くの生きものを育み、四季折々にさまざまな表情を見せてくれる清流が復活した浅川を、みんなで自然や景観を大切に未来につなげていくために、八王子市と日野市が連携して事業を進めています。

今年は、浅川の上流域、下流域にて学びや遊びを通して、両市の子どもの交流を図り、川はルールを守れば楽しい遊び場であることを体感してもらう子どもの交流事業「浅川であそぼう！」を実施しました。

参加したのは、両市の小学5・6年生28名の子どもたち。

晴天が続く、川の水量不足が懸念されましたが、午前中は、八王子市のタヤけ小やけふれあいの里で、午後は、日野市のふれあい橋付近で、水質調査や生きもの調査などを行いました。上流と下流の水温の違いや、生息する生きものの違い、また川辺の様子の違いなどを子どもたち一人ひとりが肌で感じていました。

また、午後のプログラムでは、浅川の上流、下流、多摩川の水と水道水の匂い当てクイズ、釣りや飛び込みなどの川遊びの楽しさを通して、浅川が子どもたちの身近にある遊び場であることを体感してもらいました。



飛び込み（ふれあい橋付近）



上流
（タヤけ小やけ
ふれあいの里）

水生生物の調査



下流（ふれあい橋付近）



記念撮影（タヤけ小やけふれあいの里）

地元の方や漁業協同組合の方から、沢山のお話を聞きながら学び、遊んだ1日。参加してくれた子どもたちが、この体験を通して浅川に興味を持ち、また浅川を大事にする心が育まれることを願っています。

里川づくり事業

公共下水道の普及とともに川や水路の水質が改善され、自然体験や環境学習の場、癒しの場として水辺に近づくことができるようになりました。そこで、再び川が「里川」としてより身近な存在となるような取り組みを行っています。そのひとつが「水辺の水^{みまも}り制度」です。

水^{みまも}辺の水^{みまも}り制度

「水^{みまも}辺の水^{みまも}り制度」とは、個人、町会・自治会、市民団体、学校、事業者の方などが、川や水路など身近な水^{みまも}辺の保全のために行う清掃活動や環境学習などの市民活動を、市が支援する制度です。現在は20の団体・個人の方が登録しています。制度を利用したい方は御相談ください。



清掃活動

主な活動例

- | | |
|----------------------------|--|
| ○清掃活動 | ・ 清掃用具や草刈り用具の貸出、支給
・ ごみの収集、処理 |
| ○環境学習
水質調査 | ・ 調査用具の貸出、支給
・ 活動団体間の交流、情報交換 |
| ○水 ^{みまも} 辺や水生生物調査 | ・ 調査用具の貸出
・ 調査結果の保存、活用
・ 活動内容のPR |
| ○自然体験学習 | ・ 学習用具の貸出
・ 国、都の河川管理者との調整 |

まちの話題

「水辺の水護り制度」に登録していただいた元横山町第五自治会の活動を紹介します。

元横山町第五自治会では、数年前から子育て世代の方が増えつつあり、広い年齢層の方が、協力し合い自治会を支えています。

自治会は、浅川河川沿いにあり、活動の一つとして、河川敷の清掃や草刈りなどの活動を積極的に行っています。



岩澤自治会長

自治会長：「自治会の活動によって今まで眺めるだけであった浅川に近づけるようになりました。川で遊ぶことのなかった子どもたちに川も楽しい遊び場だということを知ってほしいという想いから、青少年部では、夏休みに行っている「サマーキャンプ」に一昨年川遊びの企画を組み込みました。

役員：子どもたちは、川遊びの中でお父さんたちに教わりながら魚釣りを楽しんだり、ライフジャケットを着用してみんなで手をつないで川流れをしたり、川遊びを満喫しました。川流れの楽しさの虜となり、時間を忘れて何度も繰り返し流れる子どもたちの目は、イキイキと輝いていました。

役員：この川遊びを通して、川に興味を持ち、浅川の上・中・下流域の水質を調べた子どもや、川に棲む生きものに興味を持つ子どもがいました。興味を持つ内容は様々ですが、子どもたちは、眺めることしかなかった浅川に関心を持つようになりました。

自治会長：自然と触れ合い、川に対する印象が変化した子どもたちが成長していく過程で、川への想い、自然を大切にしたい想いを育み、その想いを次の世代へと伝えていくつながりが大事だと感じています。

今年は河川整備工事のため、残念ながら川遊びは出来ませんでしたが、来年以降は魚釣りや川遊びだけでなく、川に触れる内容をさらに増やしていこうと考えているそうです。



青少年部役員のみなさん



子どもと一緒に清掃活動



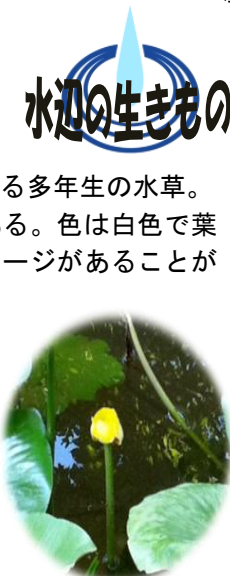
川遊びを楽しむ子どもたちの様子

～コウホネ～
(河骨)

コウホネはスイレン科の植物の一種で、日本、朝鮮半島に分布する多年生の水草。水底の泥の中に太い地下茎がある。色は白色で葉の跡が点々とありこれが骨のイメージがあることが和名の河骨の由来。

葉は水中葉と水上葉があり、冬季には水中葉のみを残し、暖かくなるにつれ次第に水面に浮く葉をつけていきます。

花期は6月から9月ごろで、長い花茎の先端に一つだけ黄色い花を咲かせます。



～編集だより～

近年、集中豪雨が多発し、「ゲリラ豪雨」という言葉も浸透しつつありますが、今夏は夕立もなく、八王子市の8月の降水量はわずか14mmでした。市内の河川では、水が枯れてしまう「瀬切れ」が目立つ状況にありました。また、都内ではダムの貯水率が低下し、取水制限が実施されました。

「水」は限りある資源です。節水を心がけ、上手に使用しましょう。

最後に、発行にあたり快く取材に応じしていただいた元横山町第五自治会の役員の皆様、ありがとうございました。